

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人仁秀会		
事業所名	グループホームたいよう		
所在地	宮崎県児湯郡都農町川北6219番地42 (電話) 0983-25-5887		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年2月9日	評価確定日	平成22年3月26日

## 【情報提供票より】 (平成22年1月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤3人, 非常勤5人, 常勤換算6.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,050 円	

### (4) 利用者の概要(平成22年1月9日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	4	要介護2	0
要介護3	3	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 88.1歳	最低 75歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ながとも医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、都農町の中心部から西側の田園地帯に位置している。隣に同じ法人のデイサービスがあり、行事等で交流を行っている。日ごろから理念やプライバシーなどについて勉強会を開催しており、職員の意識も高く、理解を深めて日々のケアの実践に取り組んでいる。近所の方や退居された家族の方が野菜など持参して来訪されるなど、地域とのかかわりも自然に行われている。また、一匹の飼い猫が利用者のいやしの存在となっていて、日当たりのよい食堂、居間では、利用者、職員の笑顔が絶えない明るく温かいホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果について、職員会議で検討されたが、具体的な改善までは取り組まれていなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員に自己評価の意義など説明している。しかし、職員自らの取り組みはしておらず、管理者が一部職員に聞き作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的で開催している。要望、意見等は、職員に報告、検討してサービスの質の向上に努めている。また、地域との交流も重点的な課題として取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見等は出しやすい状況ができてはいるが、苦情等はなかなか出されない。対策として家族へのアンケート実施を計画している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	今年は、インフルエンザで交流が少なかったが、中学生や退居された家族の来訪があり交流を行った。また、買い物や散歩の時に地域の方から声をかけられたり、あいさつを交わすなど日常的なつながりはできている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの思いを大切に地域の中の一員として、安心した生活が送れるように全職員で事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者、職員にしっかり浸透しており、常に意識しながら日々のケアにおいて実践がなされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年は、インフルエンザで交流は少なかったが、中学生や退居された家族の方の来訪があり交流を行った。また、自治会にも加入していて、散歩の時などに地域住民から声をかけられたり、あいさつを交わすなどの交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価の意義などを説明しているが、今回の自己評価は管理者が一部職員に聞き作成した。また、前回の外部評価の結果については、職員会議で検討したが、具体的な改善までには至っていない。	○	今一度自己評価の意義を理解し、全職員で取り組んでいかれることを期待したい。また、評価結果を基に課題についても、職員会議等で検討し改善計画書を作成するなど、改善に取り組んでほしい。

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。要望、意見等は、職員に報告、検討してサービスの質の向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者に運営やサービスについて報告や協議を行って、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況を来訪時や便りを通じて家族に定期的に報告している。また、金銭管理も出納簿を確認し、家族にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見等を求めているが、現在苦情等はない。これから、アンケートを実施予定である。しかし、アンケート後についての検討が行われていない。	○	アンケートを実施、検討して報告をどのように行うのか、また、家族会を活用して話し合い、意見等を出してもらい運営に反映してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等の時には、利用者へのダメージを防ぐよう、時間をかけて個別に伝えている。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき積極的に参加している。また、報告書を作成し、参加できなかった職員に対しても職員会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて研修会や親睦会に参加して交流を行い、質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族で見学に来ていただき、昼食を一緒に食べたり、行事等に参加してホームの雰囲気になじんでもらえる工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や縫い物、掃除など利用者の知恵を職員が学び、一緒に過ごし支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用し、本人や家族の思いや希望を把握して記録に残している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に希望等を聴き、職員会議、ミニカンファレンスで検討してそれぞれの希望、意見等を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しを行っている。利用者の体調が変化した時には、期間の途中であっても職員で話し合い見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院、外泊、墓参りなど、柔軟に支援している。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は、基本的に家族が行っているが、職員が代行することもある。その日に家族に報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての終末期の方針を定め、家族、かかりつけ医、職員で話し合いを行っているが、家族には方針の明示がされていない。また、話し合いの記録も残されていない。	○	終末期の方針について、家族に明示し、話し合いの記録を意思確認書等に残して、全職員が情報を共有できる体制を作してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアについて、勉強会を行いプライバシーに欠ける声かけや介護は行わないように徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望等を聴き、買い物、散歩等へ状態に配慮して柔軟に支援している。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とメニューを決めたり、味つけ、配膳などを職員と一緒にしている。また、職員全員が利用者と一緒のテーブルに着き、さりげない介助や会話を行いながら楽しく食事が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、毎日入浴ができる。入浴拒否の方へは、声かけなど対応の工夫を行い、清拭、足浴、更衣等を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、裁縫、掃除、歌や踊りなど利用者の経験を発揮する場がある。また、少人数でドライブに行き気分転換の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、外食など利用者の楽しみごとに合わせて外出の支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関、勝手口などに鍵をかけていない。利用者が自由な暮らしができるよう支援している。		

宮崎県都農町 グループホームたいよう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年、インフルエンザで避難訓練を実施できなかった。	○	マニュアルを作成して、地域住民、地元消防団などの協力の下、総合防災訓練や毎月のミニ訓練を計画して記録に残し、利用者の安全確保のために定期的な訓練を実施してほしい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分チェックを行い利用者の情報を共有し支援している。また、定期的に法人の栄養士に献立について専門的アドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居室には、日が入り明るく温かい。テーブルには、スイートピーや菜の花が飾られ、季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに使い慣れたタンスや時計、家族の写真、人形などを持ち込み、居心地の良い居室となっている。		

※  は、重点項目。